

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 大崎市立古川北中学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

住所 〒989-6252  
宮城県大崎市古川荒谷字権現山5番地

E-mail : osaki\_fk-jh@educ.osaki.miyagi.jp

Website : \_\_\_\_\_

児童生徒数：男子 151名 女子 114名 合計 265名  
 児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

## 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

### 活動1 全学年防災学習 2014年7月15日～実施

#### 1 活動の内容

##### ① 危険箇所の確認活動（全校生徒 2014年7月15日実施）

生徒会の地区活動を母体として、全校生徒で防災学習を行った。昨年度防災学習で作成した通学路安全マップを活用し、各地区の3年生が中心となって、もう一度自分たちの通学路の危険箇所を確認した。



##### ② 防災あいさつ運動（全校生徒 2014年7月16日～実施）

生徒会で作成した防災を呼びかける横断幕「考えよう命を守るその判断」を掲げ、生徒会役員や生活委員会が中心となって、朝の登校時間に合わせてあいさつ運動と防災意識の啓発を行った。



### 活動2 3年被災地（石巻）ボランティア活動 2014年10月23日実施

#### 1 目的

- ① 東日本大震災での沿岸部における被災の状況と、復旧の現状を確認することで、災害に対する正しい理解を促す。
- ② 被災地の方々への支援活動を通して、社会の一員としての自覚と奉仕の精神を養う。

#### 2 事前の活動

##### ① 被災地（石巻市）の当時の様子と復旧の現状に関する講演会

（3学年対象 2014年9月17日実施）

石巻で自主避難所を運営した「明友館」のリーダーである千葉さんから、震災当時の石巻の様子や、あれから3年以上が経過した現在の復興の現状について話してもらった。講演を聴いた生徒たちからは、「知らなかったことがたくさんあった」「早く石巻へボランティアに行きたい」などの感想が多く、ボランティアへの意識を高めることができた。



② 被災地への募金の呼びかけ（2014年10月18日実施）

3学年のボランティア実行委員が、文化祭で全校生徒や保護者、地域の方々にボランティア募金を呼びかけた。集まった募金は、主に1年生が行う被災地ボランティアでの贈り物の費用とした。



③ 被災地へ提供する雑巾の製作（2014年10月15日～21日）

仮設住宅で生活する人たちに提供する雑巾を、3学年の生徒一人一人がタオルを持参し、手縫いで作成した。これは、前年度の訪問時に被災者の方々に好評であったため、生徒の実行委員会で話し合い、今年度も実行を決めたものである。雑巾にきれいな刺繍を施すなど、工夫した雑巾を作ることができた。

3 実践活動「石巻市訪問」（3学年 2014年10月23日実施）

〈 活動1 被災地見学 〉

午前中は、バスで石巻市の湊地区と門脇地区を見学した。

両地区とも、震災当時は津波で大きな被害を受けた地域だが、湊地区は復興が進み、新しい魚市場を始め水産加工工場が次々と建設されている。その復興の様子を主に見学した。



続いて、門脇地区を見学した。湊地区とは対照的に、3年以上の月日がたった今も、この地区では大きな復興が進んでおらず、震災当時の様子が残っている。特に、火災で燃えた門脇小学校は、現在もその姿をとどめており、生徒には衝撃的だったようだ。また、慰霊碑の前では、地元の方々から当時からこれまでの話を聞くことができた。当時、門脇小学校の児童が実際に避難した経路をたどって



て日和山公園へ移動し、山頂から被災地の状況を確認した。ここでも、地元の方から当時の様子を説明してもらうことができた。



### 〈 活動2 ボランティア活動 〉

午後は、稲井地区の新栄一丁目仮設住宅で、除草や窓拭き作業を全員で行った。「被災地の方々に少しでも元気を与えよう」というスローガンのもと、短時間ながら一生懸命活動に取り組んだ。



### 〈 活動3 支援活動 〉

ボランティア活動終了後、3年生全員が事前に製作した雑巾を仮設住宅の方々に寄贈した。また、元気を与えるためにやれることで生徒たちが考えた合唱を全員で行った。曲目は合唱コンクールで歌った「翼をください」であった。仮設住宅の代表者の方からお礼の言葉をいただいた時には、全員が笑顔であった。



## 4 事後の活動 (2014年10月29日)

被災地ボランティア活動のまとめとして、生徒全員が作文を書いた。活動を振り返らせ、ボランティアへの意識を高めることができた。

### 【 生徒の作文 】

僕たち3年生は、石巻へボランティア活動をしに行きました。午前には魚市場や水産関係の工場が建てられている湊地区や、ほとんど復興が進まず荒れ地のままになっている門脇地区を見学し、地区によって復興の進み具合に差があることを目の当たりにしました。

午後は、仮設住宅の草取りと窓拭きを中心に行いました。その後、仮設住宅の代表の方に、手縫いして持参した雑巾を贈ったり、合唱やコントを披露したりしました。喜んでいただくことができ、とてもうれしかったです。僕たちが復興のためにできることは、被災地のことを忘れないことと、募金などを続けて行くことだと思いました。

## 活動3 1年被災地支援活動 2014年11月28日実施

### 1 目的

- ① 沿岸部における被災地の現状と復興に対する正しい理解を促す。
- ② 被災地の方々への支援活動を通して、社会の一員としての自覚と奉仕の精神を養う。
- ③ 被災地の方々との触れ合いを通し、人の痛みや温かさを感じる心を養う。

## 2 事前の活動

### ① 手遊び歌研修（1学年対象 2014年11月20日実施）

近くの保育所から保育士4名を招き、訪問する保育所や幼稚園で園児と交流をもつための研修を行った。手遊び歌を中心に、園児が喜ぶ遊びなどを教えていただいた。



### 3 実践活動「石巻市・東松島市訪問」（1学年 2014年11月28日実施）

2グループに分かれ、4カ所の保育所や幼稚園（1グループが2カ所を担当）の訪問、被災した方々との交流会、被災地見学を行った。

#### 〈 活動1 保育所・幼稚園訪問 〉

東松島市内の保育所1カ所と、石巻市内の幼稚園・保育所3カ所を、2グループに分かれて2カ所ずつ訪問した。園児と手遊び歌などを通して交流を図るとともに、文化祭で呼びかけた募金で購入したトイレトペーパーを寄贈した。



#### 〈 活動2 被災地見学 〉

午前中に石巻市内の被害の現状と復興の様子をバスの車窓から眺め、その後、門脇小学校を訪れた。



#### 〈 活動3 被災地の方々の話を聴く会 〉

石巻市内の仮設大橋団地の集会所で、仮設住宅に住んでいる方々から当時の様子や今の生活の様子について話を聴いた。ここでも、募金で購入したトイレトペーパーを寄贈した。



#### 4 事後の活動

- ① 被災地支援活動のまとめ（1学年 2014年12月3日実施）  
被災地支援活動のまとめとして、生徒全員が作文を書いた。

##### 【 生徒の作文 】

東日本大震災の被害の状況は、テレビのニュースなどで見たり聞いたりしていましたが、実際に津波の被害にあった場所に行く機会はなかったのですが、今回津波の被害を受けた学校を見たり、津波の中で助かった方のお話を聞いたりすることができたということは、とても貴重な経験になりました。特に、津波の被害にあった方の話では、あと5分早く避難できていれば助かったということや、以前は大丈夫だったから今回も大丈夫だろうという油断で助からなかった人もいたという話を聞き、一瞬の判断がとても大切だということを感じました。

今回の被災地支援活動で、このような経験をすることができたことは、本当によかったと思います。

- ② まとめの発表会（1学年 2014年12月10日実施）

まとめでまとめた感想文をもとに、1学年全体で発表会を行った。他人の発表を聞くことで、さらに防災への意識を高めることができた。



#### 活動4 1年防災マップづくり 2015年2月17日・18日実施

1年生が自分の通学路で見られる危険箇所や災害時に問題となる箇所を実際に確認し、昨年度作成した通学路安全マップに追加した。



#### ◇ 今年度の成果と課題 ◇

##### 1 成果

- ① 活動1より
- ・全校生徒が地区ごとに分かれて活動したことで、地区内の縦のつながりが強くなり、異年齢での活動もスムーズに行えた。
  - ・通学路の危険箇所を確認したことで、登下校時の安全への意識や、自分が生活する地区内での防災意識が高まった。
- ② 活動2より
- ・事前に講演会を開催したことで、当時や復興の様子を理解でき、ボランティア活動に対するモチベーションを高めることができた。
  - ・実行委員会を組織したことで、仮設住宅で生活している方を元気づけられる方法を、自主的に考え行動しようとする気持ちが養われた。

- ・募金活動は生徒の自発的な活動であり、文化祭に来校してくださった方々にも活動の趣旨を理解してもらい、地域に発信することができた。
- ・雑巾づくりでは、一人一人が被災地の方々を思いやりながら丁寧に縫うことができた。
- ・被災地の見学では、復興の現状と課題を実際に見て、地域の方々から話を聞いたことで、これから自分たちがどのように震災と向き合わなければならないのかを考えるよい機会になった。
- ・ボランティア活動では、仮設住宅の方と交流をもったり、お礼の言葉を聞いたりしたことで、助け合いや思いやりの心を養うことができた。
- ・まとめの感想文より、どの生徒も多くのことを学び、ボランティア活動ができてよかったという感想をもてた。

### ③ 活動3より

- ・手遊び歌研修により、自分たちが楽しいと感じることで園児も楽しいと感じてくれることに気づき、相手の立場に立った考え方ができるようになった。
- ・保育所や幼稚園の訪問を通して、園児を元気づけることで逆に園児から元気づけられた。辛い環境の中で生活している園児との交流で、自分たちもさらにがんばろうとする意識が高まった。
- ・被災した方々との交流会では、実際に津波に遭遇した方々の声を聴くことで、自然のもつエネルギーを実感し、自然と人間との関係を考えるよい機会となった。また、被災しながらもたくましく生きる人々の強さに触れ、今後の自分の生活に生かそうとする心情が育った。
- ・まとめの発表会より、震災の現状を知り、震災のことを後の人々に伝えていかなければならないことに気づいた生徒が多かった。

### ④ 活動4より

- ・改めて自分の通学路の危険箇所を確認したことで、日常生活での安全や防災に備えようとする意識が高まった。

### ⑤ 活動全体を通して

- ・震災から3年以上が経過し社会の関心が次第に薄れかけてきた時期に、ボランティア活動や支援活動を行うことは、震災の記憶を伝え、自分が何をしなければならないのかを考えるよい機会となっている。
- ・今回の活動が、多くの人たちのかかわりのおかげでできたことに気づいたことで、人と人とのつながりや思いやりの大切さを理解できた。
- ・震災当時の人々がどのように苦難を乗り越えてきたかを知ったことで、今後大きな震災が起きたときに自分がとるべき行動や、地域の中で果たすべき役割などについて考えることができた。
- ・今回の経験を生かし、生徒たちが将来の宮城県の復興や活性化に尽力してくれるという手応えが感じられた。

## 2 課題

- ・今回生徒が感じ、考えたことを、これからの生活の中で自分の行動として反映させていくような場面を設定していくことが大切である。そのことによって、今回の経験がより生かされ、深められていくと考える。
- ・1年生で経験したことを、2年、3年と継続して高めていくことが必要である。そのためには、総合的な学習の時間を中心とする学習活動全般との

連携を図り、継続的・計画的に進めていかなければならない。

- ・今年度までは、津波による被災地を中心とする活動であった。来年度以降は、自分たちの身近な地域にも目を向けさせ、防災や環境という面からESDを行っていききたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）